4.5.4. 履歴データ修正

GMDH Streamlineでは、インポートした販売履歴、手持ち在庫履歴、欠品日数履歴を修正できます。予測前に事前に修正すべき異常データがある場合、特に役に立つ機能です。

ビデオ チュートリアルを見る (0:19)

履歴データは、**ツリー ビュー**の最下層で変更できます。元の数値に戻す場合、修正値を空欄にします。変更後の値はすべて青文字で表示されます。**予測**ボタンをクリックしからプロジェクトの再予測して、修正値を予測に適用します。

販売履歴修正

次の手順に従い、販売履歴を修正します。:

1. **需要予測**タブを選択します。
2. **ツリー ビュー**から対象ノードを選択します。
3. **テーブル ビュー**の**販売履歴**行の黄色いセルをクリックします。
4. 新しい値を入力し、**Enter**を入力します。



修正が行われると:

- **ツリー ビュー**の選択ノードと**テーブル ビュー**の修正値が青文字で表示されます。
- **プロット ビュー**が更新されます。

手持ち在庫履歴修正

次の手順に従い、手持ち在庫履歴を修正します。:

1. **需要予測**タブを選択します。
2. **ツリー ビュー**から対象ノードを選択します。
3. **テーブル ビュー**の**手持ち在庫**行の黄色いセルをクリックします。
4. 新しい値を入力し、**Enter**を入力します。



欠品日数履歴修正

取引データをインポート後、GMDH Streamlineは*欠品日数*パラメータを自動的に計算します。この指標は、期間中の欠品日数を表します。計算された欠品日数が実際と異なる場合、これらを修正することで、予測時のモデルをより良く評価できます。その理由は、設定された欠品日数から期間内の需要が再計算され、モデル構築時に販売データの重みづけが変更されるためです。

次の手順に従い、欠品日数履歴を修正します。:

1. **需要予測タブ**を選択します。
2. **ツリー ビュー**から対象ノードを選択します。
3. **テーブル ビューの欠品日数**行の黄色いセルをクリックします。
4. 新しい値を入力し、**Enter**を入力します。



次へ: 機会損失の考慮

PDFダウンロード

From:
https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ - **GMDH Streamline Docs**

Permanent link:
https://gmdhsoftware.com/documentation-sl/ja:historical-data-corrections

Last update: **2020/09/27 08:53**